

## 新地発電所における木質バイオマス燃料設備設置工事の再開について

### 1. 再生可能エネルギー普及への取り組み

当社は、これまでに地球環境問題への取り組みとして、発電所の発電効率の維持・向上、省エネルギーを実施してまいりました。

また、国の政策としての再生可能エネルギーの利用促進、及び地球温暖化対策への貢献の一環として、木質バイオマス燃料を混焼することによるCO<sub>2</sub>削減に取り組むこととしておりましたが、東日本大震災による被災を受け、発電設備の復旧を優先させるため、バイオマス燃料設備設置工事を中断しておりました。

このたび、発電設備の復旧が終了したことから、バイオマス燃料設備設置工事を再開することとなりましたので、お知らせいたします。

- (1) 木質バイオマス燃料は木材を伐採した後に発生する未利用の木質原料等を加工した再生可能エネルギーです。
- (2) 木質バイオマス燃料の燃焼によるCO<sub>2</sub>はカーボンニュートラル（排出量は0カウント）であり、CO<sub>2</sub>排出削減に寄与するものです。
- (3) 木質バイオマス燃料を発電所で燃料として利用することにより、循環型社会の形成に寄与するものです。

### 2. 木質バイオマス燃料

木質バイオマス燃料は、主に海外の林地残材や製材所などから発生する未利用の木質原料を乾燥・粉碎し、圧力を加え、直径6～9mm、長さ10～25mmの円筒状に成型加工した固形燃料です。



木質バイオマス（一例）

### 3. 木質バイオマス燃料混焼計画の概要

木質バイオマス燃料混焼計画の概要は以下のとおりです。計画の進捗により若干の変更がある場合があります。

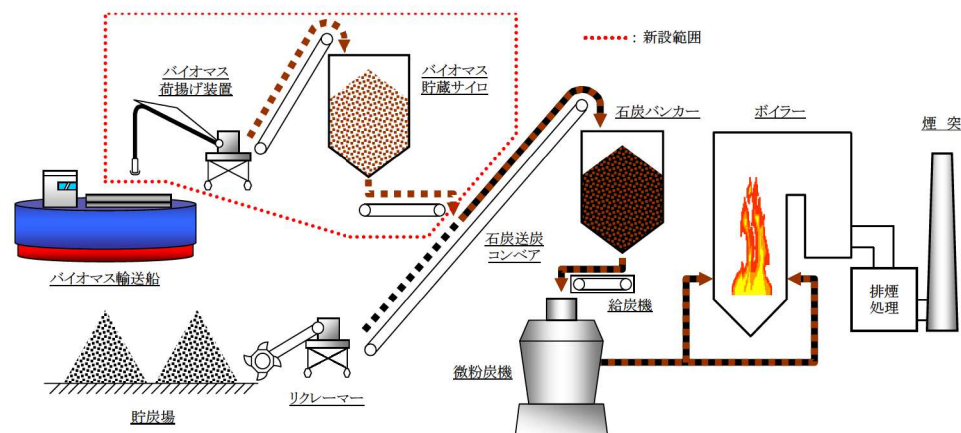
- (1) 混焼する燃料  
木質バイオマス
- (2) 混焼率  
約3%（熱量ベース）
- (3) 木質バイオマス年間使用量  
概ね14万トン
- (4) 年間二酸化炭素排出削減量  
概ね2.3万トン
- (5) 工程  
工事開始：平成23年1月（平成23年3月～平成25年2月まで工事中断）  
工事再開：平成25年3月  
運用開始：平成26年度中  
運用ユニット：1号機（出力100万kW）、2号機（出力100万kW）

### 4. 設備概要（バイオマス燃料輸送からボイラーまで）

木質バイオマス燃料は5号埠頭より荷揚げを行い、専用のサイロへ貯蔵します。

木質バイオマス燃料を送炭コンベア上で石炭と混合し、微粉炭機で粉碎したうえで、ボイラーで石炭とともに混焼します。

木質バイオマス燃料を荷揚げ、貯蔵するための荷揚げ装置、サイロ、その他コンベア等を新設します。



### 5. 環境への影響

木質バイオマス燃料による燃焼性能や環境への影響は問題ないと考えています。